



— ぶつ講話 —

原点に戻って素直に生きて

善光寺住職 黒田 武志

私は常日頃から、世界は一つだとかたく信じ
ています。韓国国立精神文化研究院で哲学博士
の丁海昌先生にお話をしていたのですが、
言葉は違っても、意味するところは私の思っ
ていることとまったく同じ。やはり心は一つ、世
界は一つなのだなあとあらためて実感いたしま
した。

科学文明が発達していき、人が孤独感、喪失
感を大きくしていく二十世紀にこそ、魂の癒

しとして宗教がとても大切になってくる…。神
仏をおそれ敬っていた頃の人々は、世界のあら
ゆる人と、そして自然と調和して生きていく術
を知っていました。そんな人間の原点の、清ら
かな魂に戻って日々を生きていきたい、そんな
気持ちになりました。

私は毎朝五時前に起床し、朝のおつとめをさ
せていただいております。この頃起きるのがつ
らいときがあつて、もう私も六十歳ですし、も

しかしたら仏さまが、「あんまり無理をするなよ」とおっしゃっているのかなあと思うこともあります。

しかし、身体がいうことをきかなくなるまでは、みなさまに喜ばれるように、仏さまに「よくやった」といつていただけるように、命けずつてもやってみようと考えております。「ああ、これでよかつたんだ」と思えるような生活をしてみたいと。

『気は長く 勤めは堅く 色うすく

食細うして ころろ広かれ』

これは天海大僧正が徳川家康に送った言葉ですが、私もこの言葉を一日一分たりとも忘れず、心に念じつつ生きていくことが大切と考えています。

毎朝聖徳太子さまのお姿にお参りし、一時間半ほどかけて六十数個のお水を差し上げながら、私はこう念じております。

「天海大僧正のお言葉のように、人の意見に素直に耳を傾けて、しっかりと仕事をし、欲を抑えて、感謝しながらいただける分だけ少し食べ、そして、和顔、愛語でやさしく思いやりの深い心を持って世界の平和のために生きたいと願った自分の原点・出発点に戻るんだ」。

たとえば、みなさまから、

「方丈さん、それではだめだよ」

とか、

「それは間違いだよ」

とおっしゃっていたら、大きな声で、

「ハイッ！」

と返事をして素直に、ありがたくお受けしたい。今年も、還暦を迎えてとくに、この「素直に生きていく」ということを目標に、一日一日を歩んでいきたいと考えております。

平成十年一月十日

横浜善光寺新年祈禱会より抄録

